



平 友恒先生を悼む

太 田 馨

本学教授平友恒博士は昭和46年8月17日、心不全のため永眠されました。先生には最近健康がすぐれず、本年4月から休職されましたので、我々一同心配いたし、一日も早く御回復されるよう願っておりました。しかるに、こんなに早くお別れの日が来てしまって、唯唯茫然とし深い悲しみにうたれたのであります。

先生は明治29年1月31日鹿児島県に御出生、長じて鹿児島高等農林学校農学科に入学し、大正7年3月15日農芸化学を専攻して卒業されました。大正8年2月台湾総督府研究所技手となり、発酵部に勤務されましたが、好学の志止まず、大正11年9月現職のまま東京に出向し、理化学研究所の研究生となり、その上東京大学で鈴木梅太郎博士の生物化学を聴講されました。大正12年12月台湾に帰任されましたが、昭和8年9月依願免官となりました。昭和9年10月株式会社武田商店に入社されて研究部に勤務し、昭和12年8月長年の御研究をまとめられた「発酵副産物の成分研究」に対し東京大学より農学博士の学位が授与されました。昭和19年12月現職のまま財団法人発酵研究所へ出向されましたが、昭和22年6月再び武田薬品工業株式会社研究所の主任研究員となられ、研究に従事されましたが、昭和26年1月同社を停年退職されました。そして昭和26年4月より本学の教壇に立たれたのであります。

本学に就任されてから20ヶ年、この間先生は学生の教育に、学術の研究に心身をそそがれ、心温まる御指導をたまわったことは、私一人だけの感銘ではないでしょう。特に黙々として、雨の日も風の日も、日曜日でさえも実験されていた先生の面影は私の脳裏に残っており、我々の範とすべき所であります。かように、多年本学に勤務され、教育上、学術上多大の功績がありましたので、大学より名誉教授の称号が授与されました。

今や幽冥境を異にして、再び先生の御指導を抑ぐことができなくなり、真に淋しい限りであります。我々は先生の生前の御意志を体し、食物学の発展に邁進し、先生の霊をお慰めしたいと存じます。ここに食物学会を代表して哀悼の意を捧げると共に、先生の御冥福を心から御祈り申し上げます。

昭和46年9月6日記